

## 第8回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

第8回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を、平成30年2月21日(水)に山梨県立大学 池田キャンパスにて開催しました。甲府市北西地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、113名の方にご参加いただきました。



コーディネーター  
佐藤 治美 氏

交流会のコーディネートを甲府市北西地域包括支援センター佐藤治美氏、事例提供を同センターの山中仁美氏に務めていただき、交流会を進めました。

座談会では、事例を通して「在宅生活における多職種での支援」をテーマに、それぞれの職種の意見を聞き、多職種の連携について真剣に考えました。

複雑な問題を抱えて生活をしている本人や家族が住み慣れた地域の中で、笑顔で生活できるように、参加者の皆さんが活発に意見交換をしました。



事例提供者  
山中 仁美 氏

座談会終了後、各グループで行われた意見交換の内容について発表していただきました。

発表者からは、「いろいろな職種の意見を聞くことで、新たな視点やたくさんのアイデアが生まれた」という意見や「専門職だけでなく、地域で支えてくれる地域住民もチームの一員として、関わっていくと良いと思う」という意見など、『多職種』『連携』をキーワードとした感想や意見を多くいただきました。



また、参加された医師から「治療拒否をされる患者さんについて、現在、在宅医として関わると、病院勤務医の立場では見えなかった患者さんのこれまでの背景や人となりが見えてくるので、なんとかしてあげたいという気持ちが強くなる」「医者が在宅医療に興味をもって、在宅医が増えるようにしていきたいと考えている」という在宅医療への想いをうかがいました。

最後にコーディネーターより、「多職種同士が協力し、知恵を出し合って、甲府市の福祉・健康・幸せを作っていきましょう」と締めくくっていただき、交流会は盛会のうちに終了しました。

# 交流会の様子を 掲載します！

